

令和7年3月19日

一般社団法人 全国浄化槽団体連合会

会 長 上 田 勝 朗 殿

水環境保全助成事業実施報告書（総括表）

団体名称	美しい山形・最上川フォーラム
代表者	会 長 柴田 洋雄
所在地	〒990-0041 山形県山形市緑町1-9-30 緑町会館 電話番号 023-666-3737 F A X 023-666-3738
事業内容 (概要、成果等)	「身近な川や水路の水質が知りたい」という県民の声に応えるため、誰もが参加しやすく、わかりやすいように、地域を流れる河川の水質やその水辺の環境を簡単な水質調査キットを使って調査。この活動を通じて、河川への関心を深め、生活との関わりを理解し、環境の保全や改善のための取組みにつなげていく。また調査結果はホームページで公表し、流域全体での情報の共有や、地域ごとの課題解決の材料として活用する。 調査内容 ・パックテストを使った6項目の水質調査 (pH、COD、アンモニア性窒素、硝酸性窒素、硝酸性窒素、リン酸性リン) ・川の概要（水温、川幅、水深等） ・透視度計による透視度調査 ・水辺環境（ゴミ、自然植生、泡立ち等）の簡単な目視調査
事業実施期間（日時）	令和6年4月～令和7年3月
事業実施場所	山形県内全域
参加人数	957名
経過	4月17日 実施検討会をオンラインと併用し実施 (実施要領、募集チラシ、調査マニュアルの確定) 4月下旬 参加者募集開始 (チラシを関係者に送付、ホームページ等でも広報) 5月17日 応募締切り（6月9日まで調査の場合）としたが、実施期間中は随時受付。 6月1日～10月18日（6月9日までの原則の調査期間を設け、その後も延長） 調査期間中は、要請に応じ、現地での調査サポートや事前説明等を実施。 10月25日 調査報告書提出締め切り 12月 調査結果（データ）をホームページで公表 3月末 レーダーチャートや河川地図を用いた報告書資料作成

説明資料、参考資料、成果物を添付してください。

会計報告

費 目	内 容	金 額
旅 費	①実施検討会旅費 8,800円 ②調査サポート、打ち合わせ等旅費 47,081円 ③ワークショップ打合せ、当日旅費 1,710円	57,591円
印刷製本費	①参加者募集案内チラシ (2,200部) 22,598円 ②河川記録用紙(300部) 4,441円 ③調査マニュアル (200部) 75,900円	102,939円
通信運搬費	①参加者募集案内等発送費 47,387円 ②調査器材等発送費 32,450円 ③その他事務手続き等に係る郵送代 1,872円	81,709円
消耗品・材料費等	①パックテスト、比色カード、スポイト、 専用カップ 207,592円 ②その他消耗品等 13,618円 ③振込手数料 1,430円	222,640円
合 計		464,879円

領収書、明細を添付してください

水環境保全助成事業実施報告説明資料

「身近な川や水辺の健康診断」

1. 実施検討会 ※実施要領添付

- ・開催日時：4月17日（水） Webでの参加も可とし実施。
- ・参集者：国土交通省、山形県環境関係部署、分析機関、環境団体、大学等
- ・実施要領、募集チラシ、調査マニュアルの確定。

2. 参加者募集 ※募集チラシ添付

- ・4月下旬に募集チラシを送付
- ・送付先：令和4年度・5年度参加団体、小・中・高等学校、大学、市町村
他関係機関等
- ・家庭にあるペットボトルで透視度計を作るワークショップを7月28日（日）山形県産業科学館にて実施し、小学生の夏休みの自由研究のテーマなどとして調査参加を促した。

3. 一斉調査 ※調査マニュアル、調査記録用紙添付

- ・調査期間：6月1日（土）～6月9日（日）
※原則として上記期間を設けたが、学校で実施する場合や諸事情を鑑み、実施期間を10月18日（金）までとし、安全安心を心がけ、無理のないよう実施できるよう配慮した。
- ・調査内容等：別添「令和6年度報告書『笑顔を写す山形の川』」抜粋資料P7～10 参照
- ・参加申込：67団体・958名・195箇所
- ・調査実施：67団体・957名・180箇所
- ・調査実施団体・調査箇所：別添「令和6年度報告書『笑顔を写す山形の川』」

抜粋資料P11～12 参照

4. 参加者への現地調査サポート

- ・初参加団体や学校等からの要請に応え、清流環境対策部会部会長・副部会長、事務局のほか下記団体の協力で、事前説明や現地にて水質調査指導、調査全般のサポートを23団体にて実施。

【協力会員等】公益社団法人山形県水質保全協会（会員企業含む）、千門町蜚の会、
心のふるさと新井田川の会、株式会社理研分析センター、村山地域部会

5. 調査結果：調査結果を水辺診断書により評価。レーダーチャートで表す。

- ・地域ごと：別添「令和6年度報告書『笑顔を写す山形の川』」抜粋資料P13～24 参照
- ・全県の水質マップ：①別添「令和6年度報告書『笑顔を写す山形の川』」

抜粋資料P27 参照

②別添「水辺診断書でみた河川水質マップ」A3 概要版参照

6. 公定法調査協力

- ・パックテストによる調査にあわせて、同一地点において精度の参考とするため、下記の団体・企業の協力を得る。

【協力団体・企業】公益社団法人山形県水質保全協会、株式会社理研分析センター、
一般財団法人山形県理化学分析センター、株式会社テトラス、
東北環境開発株式会社、株式会社東北サイエンス

- ・別添「令和6年度報告書『笑顔を写す山形の川』」抜粋資料P25 参照

《添付資料》

- ① 実施要領
- ② 実施検討会参加者名簿
- ③ 募集チラシ
- ④ 調査マニュアル
- ⑤ 調査記録用紙
- ⑥ 令和6年度報告書「笑顔を写す山形の川」
(ホームページ掲載用データから抜粋し印刷)
- ⑦ 令和6年度「身近な川や水辺の健康診断」
水辺診断書で見た山形県の河川水質マップ

令和6年度「身近な川や水辺の健康診断」実施要領

1 趣旨・目的

- ・県民の「自分たちの身近な川や水路の水質が知りたい」という声に応えるため、誰もが参加しやすく、わかりやすい水質調査を行い、水のにごりや富栄養化(窒素・リン)の問題への理解と関心を高める。
- ・活動を通じて河川への関心を深め、関わりを理解し、水環境の大切さや改善したい課題を発見することで、水質や水の循環、動植物の生息環境の保全や改善のための取組みにつなげていく。
- ・調査結果報告はホームページ等で公表し、情報の共有や地域ごとの課題解決の材料として活用することを期待する。

2 運営体制

○美しい山形・最上川フォーラム(清流・環境対策部会)

○引き続き協力を要請する機関

- ・国土交通省(山形河川国道事務所、酒田河川国道事務所、新庄河川事務所)
- ・山形県([本庁(県民活動・防災ボランティア支援室、水大気環境課、河川課)], [総合支庁(環境課、河川砂防課)], 環境科学研究センター)
- ・公定法調査機関(環境分析関係事業所、大学、試験研究機関、行政機関)

3 参加募集等

(1)参加者

地域の団体や職場、事業者、学校など、大人から子どもまで誰でも気軽に参加できる。ただし、児童・生徒が参加する場合は、事故防止等のため、教師や保護者による十分な監視指導体制の確保を求める。

(2)調査実施箇所

調査実施箇所の選定及び箇所数等については、原則として参加者が決定する。できるだけ定点を含めた実施を促す。河川のほか、用排水路や湖沼等の調査を行うことも可能。ただし、河川以外の水路やため池等で調査する場合は、調査前に管理者の了解を得ていただく必要がある。

※調査箇所が重複する場合や、危険が伴うと判断される箇所については、変更していただく場合あり。

(3)参加料

参加料は無料とし、調査器材や調査マニュアルについてはフォーラム等が負担する。ただし、上記以外の調査に伴う費用(雨具や保険料等)については自己負担とする。

(4)広報

- ・市町村に対して、市町村窓口等への募集チラシの配置を依頼する。
- ・市町村の教育委員会に対して、小・中学校への募集チラシの配布等の協力を依頼する。
- ・フォーラム会員自らが率先して調査に参加するとともに、関係団体や大学等にも呼びかける。

(5)参加申し込み

- ・参加申込書に必要事項を記入の上、原則として5月17日(金)まで事務局へ提出とする。ただし異常気象による気候の変動など現在の諸事情を鑑み、その後も調査期間中は事務局に問い合わせの上、随時申し込みを受け付ける。
- ・提出方法は、E-mail・郵送・FAX いずれでも可とする。

4 実施方法

(1)調査の実施期間

6月1日(土)～6月9日(日)

※世界環境デー(6月5日)にあわせ、これまで実施してきたとおり、原則として上記期間を設けるが、学校で実施する場合や諸事情を鑑み、実施期間を10月18日(金)までとし、安全、安心に無理なく実施できるよう配慮する。

参加者は、期間内で都合の良い日時に調査活動を行う。

(2)調査内容

①パックテスト 6項目

(pH、COD、アンモニア性窒素、亜硝酸性窒素、硝酸性窒素、リン酸性リン)

※CODについては、6月2日(日)の「身近な水環境の全国一斉調査」の一環として実施。50地点分の器材提供を受けるとともに、調査結果を事務局の「みずとみどり研究会」へ提出する。

②川の概要(水温、川幅、水深等)

③1メートル透視度計による透視度測定

④水辺環境の目視調査(自然植生、泡立ち、散乱ゴミ等)

⑤水生生物調査(主催:山形県環境科学研究センター)

※調査を希望する団体のみ当フォーラムを通して申込み可能とする。

※同センター環境企画部(0237-52-3124)を相談窓口とする。

※同センターが開催する同調査の出前講座を案内。

⑥公定法調査実施機関に対して、大腸菌数調査も合わせて依頼する。

(3)調査機材

①パックテストや調査マニュアル等:事務局から送付する。

②透視度計:地域の担当者からの協力で、調査期間中を通して貸し出す。

③水生生物調査キット:調査希望者は、総合支庁環境課へ各自借りに行くように案内をする。

(4)結果報告期限

・6月14日(金) ※6月10日以降に実施の場合は、10月25日(金)までとするが、実施後一週間以内を目処に結果がまとまり次第提出いただくよう、協力をお願いする。

・提出物:A「河川調査記録用紙」、B「調査地点地図」(各自添付)、C「水生生物調査結果集計用紙」(水生生物調査実施団体のみ)

河川記録調査用紙以外でもエクセルシートの入力フォームからの報告も可とし、ホームページを案内する。

・提出先:美しい山形・最上川フォーラム事務局

(5)参加者で準備するもの

・筆記用具、温度計、参加者名簿、カメラ、ゴミ袋、紙コップ、メジャー、時計(秒針またはストップウォッチ機能付きのもの)、空のペットボトル(1ℓ以上のもの)、雨具、長靴、帽子など。

※ツツガムシ病被害防止のために、河川敷の草むらに立ち入る場合の服装は、長袖、長ズボン、長靴とするよう注意する。

5 事前説明、調査サポート

事前の調査方法の説明や当日の調査サポート等の要請に応じて、地域部会や会員専門機関等の協力をいただき個別に対応する。気軽に問合せ等できるよう案内する。

6 調査結果について

- ・事務局にて調査結果を集約し、秋口開催の部会内等にて参加状況結果を報告する。
- ・調査結果をホームページにて広く公表するとともに、各参加団体・各学校・公立図書館等に全県の河川地図の概要版を送付する。

7 スケジュール

	内 容
4/17(水)	○実施検討会(実施要領、募集チラシ、調査の手引きの確定)
4月下旬～	○参加者募集開始 ・募集チラシを送付 (昨年度参加団体、各学校、市町村、関係機関、団体など) ・ホームページ、メールマガジン、マスコミを通じ広報
5/17(金)～	○募集締め切り後 ・参加団体数・参加者数を集計し、器材配布計画書の作成
5月下旬～	○参加者へパックテスト・調査の手引き等の発送 ・実施日時の早い団体から順次発送
5月下旬～	○事前調査説明の要請があれば対応
6/1(土)～ 10/18(金)	○一斉調査期間(原則は6月1日～6月9日) ○調査現地サポート等の要請があれば対応
6/14(金) 10/25(金)	○報告締め切り 全国調査への報告(6月末日締め)関係上、6月9日まで実施した団体の締め切り日は6/14日(金)、その後実施の場合は10月25日(金)。
11下旬頃	○清流・環境対策部会等で参加状況報告、意見交換。 ・ホームページへ取りまとめたデータの結果公表
3月末	○報告資料作成 ・ホームページ上にデジタルブックで掲載、全県の概要版のみ印刷

令和6年度「身近な川や水辺の健康診断」実施検討会 出席者名簿

日時 令和6年4月17日(水)13:30～

場所 一般財団法人山形県理化学分析センター 2階会議室

氏名	所属等	備考
菅原 幸司	清流・環境対策部会長 (株式会社理研分析センター 代表取締役)	
大泉 茂	清流・環境対策部会 副部会長 (一般財団法人山形県理化学分析センター 理事長)	
梶原 晶彦	山形大学農学部	
佐藤 貢一	公益社団法人山形県水質保全協会	
佐竹 良廣	村山地域部会長 (エコアクション21判定委員(地域事務局))	
岩瀬 秀一	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所河川管理課 専門調査官	
佐藤 輝	国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所河川管理課 堰管理専門官	ズームで参加
工藤 千草	山形県防災くらし安心部消費生活・地域安全課 県民活動・防災ボランティア支援室 室長補佐	ズームで参加
横山 秀典	山形県環境エネルギー部水大気環境課 課長補佐	ズームで参加
上林 和彦	山形県県土整備部河川課 副主幹	ズームで参加
荒木 俊	山形県村山総合支庁保健福祉環境部環境課 主査	
井上 和俊	山形県村山総合支庁建設部河川砂防課 課長補佐	
佐藤 文哉	山形県置賜総合支庁保健福祉環境部 環境課	ズームで参加
堀 昌史	山形県最上総合支庁保健福祉環境部 環境課 環境企画主査	ズームで参加
新藤 道人	山形県環境科学研究センター 主任専門研究員	

(敬称略、順不同)

<事務局>

氏名		
佐藤 浩美		